

# 五竜岳&鹿島槍ヶ岳山行報告

【山行日】2017年 8月 5~7日(土~月)

【集 合】岩舟支所P AM 3:30

【費 用】マイカー1台 : 29,100円

【メンバー】CL:鈴木 石川、岩淵、香川、  
藤原、松館、

5日 曇り時々晴れ 八方尾根から唐松岳  
頂上山荘に登り、牛首のクサリ場を下って五竜  
山荘へ

岩舟支所P3:30=ゴンドラ駅P6:10/6:40++

八方池山荘 7:20/7:30~八方池 8:30/8:45~

丸山 10:10~唐松山荘 10:55/11:35~

五竜山荘 14:00



今年の夏の天気は梅雨が明けても天気がぐずつき、毎週決行できるか悩まされる。

先週の夏山ビッグ山行第2弾、槍ヶ岳山行は雨の為中止になった。今週も直前まで天気が定まらず悩まされたが、前日の天気予報で何とか行けそうなので、夏山ビッグ山行第3弾は決行することにした。



八方ゴンドラ駐車場に車を止め、準備が出来たらゴンドラ乗り場に並ぶ。前回は7時30分からの運行だったが、今日は6時30分から運行になっていた。急いでチケット売り場に並ぶが、こちらも長い列が出来ており中々進まない。やっとチケットを購入し、ゴンドラに乗り込む。ゴンドラ山頂駅から2本のリフトを乗り継ぎ、八方池山荘まで楽しんで高度を稼げる。リフトの下はお花畑で、I瀬さんはキレイ・キレイと大はしゃぎして花を楽しんでいた。山荘脇のトイレでトイレを済ませ、ストレッチを行ってから出発する。

尾根コースと湿原コースに分かれるが、ガスで眺

望は期待できないので花を楽しめる湿原コースを登って行く。さすが人気のコースで、多くのハイカーが列をなして歩いており、その後に付いて登って行く。花を楽しみながらゆっくり登り、八方池上に設けられた第3ケルンで休憩を取る。時折ガスが晴れ、白馬鑓ヶ岳や不帰ノ嶮の岩峰が姿を現す。K川さんは八方池に映る白馬鑓ヶ岳を撮りたいと池に降りて行く。晴れていると八方池の上に、感動するほど美しい白馬三山が望めるが、今日は1部しか見られない。それでも予想したより良い天気で、皆さんハイテンションで登って行く。明るいハイマツの尾根を進み、ダケカンバの巨木が目立つ樹林帯が下ノ樺だ。この先急斜面を一気に登れば尾根の末端に着く。尾根の南斜面にトレースされた登山道を辿り、尾根にダケカンバが多くなった地点が上ノ樺だ。



休憩を取り、トマトや菓子を食べエネルギーを補給する。丸山ケルンを過ぎ、天気良ければ不帰ノ嶮と眼下に広がる白馬山麓の眺望が素晴らしい所だが、あいにくのガスで眺望は得られない。やがて沢



状の崩れた岩場を通過し、左から大きく回り込むように進むと唐松岳頂上山荘に着く。山荘前は大勢の登山者が休憩しており、我々も山荘前のベンチを確保しランチタイムとする。早速、キャベツともやしたっぷりの塩ラーメンを作って食べ、皆さんは美味しいと言って食べたが、我輩は塩味が薄く物足りなく感じた。お茶やデザートもいただき、女性達は山荘でトイレを済ませ出発する。唐松岳頂上山荘を出発すると、直ぐに牛首の岩場が現れる。赤茶色の岩はもろく、浮石も多いので慎重に進んでゆく。大きな荷物を背負った女性2名が追い越して行ったが、難所のクサリ場の下り

は苦手らしく時間が掛かり待たされる。

難所の岩稜帯にはクサリがしっかりと固定されているので安心だが、クサリの位置が低いので怖い。クサリの位置が低い場合は、クサリに頼らず岩のホールドを掴んで降りるよう指示し降りて行く。

大黒岳の岩峰は黒部側から基部を巻くように通過する。大黒岳を過ぎると、明るい砂礫の斜面になり歩き易くガスの向こうに五竜岳がうっすらと見えるようになる。最低鞍部まで下るとダケカンバやトウヒの

灌木帯になり、ここからまた赤茶色の岩礫の斜面を登りが始まる。白岳まで長い登りが続き、途中平坦な場所で休憩を取りながらゆっくりと登って行く。

ハイマツ帯の広々とした斜面は、時々九十九折れに登り高度を稼いで行く。遠見尾根への分岐を左に分け、白岳から10分程下ると五竜山荘に着く。

受付を済ませ部屋に案内されると、2段の上の部屋だが8名用の部屋を6名で使用でき超ラッキー。

予約時に5日はすでに予約でいっぱい、混雑しますと言われたが台風5号の影響でキャンセルがあったかも。何はともあれ1枚の布団に寝られ皆大喜びしていた。

男女交代で体を拭き、着替えを済ませたら外のベンチで宴会が始まる。目の前に五竜岳がはっきり見え、素晴らしいロケーションに酒も進む。迷走する台風5号に翻弄されたが、とにかくこんなすごい山に来られて良かったと話が盛り上がったが、明日はもっと大変なのでそこそこで切り上げる。夕食は五竜山荘名物のカレーライスをいただき、明日に備えて早めに床に就いた。



**6日 曇り時々晴れ 五竜山荘から五竜岳に登り、G4・G5の急峻な岩峰を経由しキレット小屋から最大の難所「八峰キレット」を通過し鹿島槍ヶ岳から冷池山荘へ**

**五竜山荘 4:00～五竜岳 5:05/5:30～北尾根の頭**

**7:40～キレット小屋 9:10/9:30～北峰分岐 10:50～**

**北峰 11:00～北峰分岐 11:10/11:40～南峰 12:15/12:30**

**～布引山 13:10～冷池山荘 14:00**

朝3時に起床し、外に出ると雨は降ってないがガスが濃く何も見えない。部屋に戻り荷物を纏めて食堂へ行き、朝食を食べる。小屋の方に食堂の使用をお願いしたら、お湯を用意してくれありがたかった。

準備を整え外に出て、ストレッチを行いヘッドランプを点けて出発する。周りは何も見えず、登山道のトレースとペンキマークを慎重に確認しながら登って行く。



毎回暗いうちに登るので、五竜山荘から五竜岳までの景色は一度も見たことが無い。  
ヘッドランプの明かりを頼りに、険しい岩稜を登り高度を上げて行く。



中間点を過ぎたあたりで明るくなるが、ガスが掛かり周りの様子は分からない。クサリ場を越え一登りで山頂の一角に出るが、山頂は右奥に進んだところにある。お互いに登頂の握手し、喜びを分かち合い記念写真を撮って休憩する。山頂からの眺めは素晴らしいが、あいにくガスで眺望は得られなかった。朝食を食べたりしてしばらく待つが、晴れそうにないので出発する。五竜岳から鹿島槍ヶ岳の間が後立山連峰の核心部で、ガレ場や岩場などの難所が連続する。五竜岳直下の下降は、いきなり岩交じりの急な下りだ。気を引き締め、スリッパしないよう慎重に降

りて行く。長いクサリが連続し、後ろから「なにこれ～～剣より大変じゃん！」と声が聞こえてきた。

鞍部まで下ると、前方に剣のように鋭いG4の頭、G5の頭の岩峰が現れる。

これから先の岩峰への登りに備え、鞍部で休憩を取りエネルギーを補給する。

G5の頭は黒い小岩峰群で、クサリ場や切り立った岩場が連続し、黒部側にコースが付けられている。

茶褐色のガレ場を通り、ハイマツに囲まれたピークを過ぎると、前方には赤茶色の北尾根ノ頭が望める。このピークへは黒部側から回り込み、ハシゴを伝って登る。正面には鹿島槍ヶ岳の双耳峰、後方には荒々しい五竜岳が眺望できる。北尾根ノ頭から、歩きやすいハイマツ帯の山腹を口沢のコルへと下る。

口沢のコルは五竜岳と鹿島槍ヶ岳間の最低鞍部で、五竜岳から400mも下った平坦地だ。

口沢のコルをからは再び急な岩場が連続し、立ちほだかる岩峰を越えて行く。鹿島槍ヶ岳北峰を望めるピークを越え、クサリ伝いに岩場を下ると狭い鞍部に建てられたキレット小屋に着く。小屋の前のベンチで大休止し、トイレを済ませ小屋で飲料を補給し疲れた体を休める。キレット小屋を出ると、直ぐに岩場に取りつく。クサリ伝いに進み、八峰キレットの上部に出る。鉄ハシゴでキレットの鞍部に下り、草付の岩壁をクサリ伝いに慎重に通過する。信州側から黒部側へ移り、ハシゴで登り返す。八峰キレットの核心部は短い、岩に慣れない方には手強い場所だが、皆さんは朝からクサリ場をいやというほど経験したので、「八峰キレットは大したことないね」と涼しい顔をしていた。鹿島槍ヶ岳北峰へは、岩が混じったハイマツ帯の急登が続く。何回かアップダウンを繰り返して、やがて北峰分岐に着く。分岐に荷物を置き鹿島槍ヶ岳北峰をピストンし、分岐に戻りランチタイムとする。ネギを入れたミソラーメンを作り、汗で失われた塩分と水分を補給する。北峰分岐からは、高山植物を見ながら吊尾根をたどり、岩混じりの急斜面を登れば待望の鹿島槍ヶ岳南峰に着く。南峰には三角点が置かれ、盟主にふさわしい大パノラマが



は手強い場所だが、皆さんは朝からクサリ場をいやというほど経験したので、「八峰キレットは大したことないね」と涼しい顔をしていた。鹿島槍ヶ岳北峰へは、岩が混じったハイマツ帯の急登が続く。何回かアップダウンを繰り返して、やがて北峰分岐に着く。分岐に荷物を置き鹿島槍ヶ岳北峰をピストンし、分岐に戻りランチタイムとする。ネギを入れたミソラーメンを作り、汗で失われた塩分と水分を補給する。北峰分岐からは、高山植物を見ながら吊尾根をたどり、岩混じりの急斜面を登れば待望の鹿島槍ヶ岳南峰に着く。南峰には三角点が置かれ、盟主にふさわしい大パノラマが

楽しめるが、あいにくガスが掛かり、近くの山々は見えるが遠望は得られなかった。山頂で記念写真を撮り、景色を楽しんだら冷池山荘を目指す。最初は砂礫の斜面をジグザグに下り、布引岳を過ぎたらハイマツ帯の急斜面を下るようになる。

チングルマやハクサンフウロなどが咲くお花畑まで下ると冷池山荘はもうすぐだ。

テン場を過ぎ、数分下ると冷池山荘に着く。受付で個室を希望すると「今日は混雑しないので、個室の必要はないです」と言われ、10人用の部屋を6人で使用できゆったり寝ることが出来た。男女交代で着替え、荷物の整理が済んだら外のベンチで宴会が始まる。ベンチで一緒になった方は柏原新道を登って来たが、途中雨に3回降られレインウエアーを着たり脱いだりして時間をロスしたと話していた。

我々は1度も雨に遭わず、楽しく歩け超ラッキーだったようだ。ところが宴会の途中で雨が降り出し、あわてて建屋に入り自炊室を借りて宴会は続いた。「今日の岩稜はクサリ場の登降が連続し、剣岳より迫力があり難しかった」と話が盛り上がり、生ビールやお酒がどんどんはかどった。



**7日 晴れ 冷池山荘から爺ヶ岳に登り、種池山荘から柏原新道を下って扇沢出合へ。**

**冷池山荘 5:35～爺ヶ岳 7:10/7:30～種池山荘 8:00/8:30～ケルン 9:20/9:30～扇沢出合 10:20＝**

**Gondola 駅 P11:30/11:40＝八方温泉 11:50/12:30＝ガスト 12:40/13:10＝岩舟支所 P16:40**

朝4時30分に起床し、窓を開けて外を見ると快晴で立山連峰が素晴らしかった。台風が速度が遅く今日まで天気が持つようだ。5時から朝食をいただき、準備が出来たら外に出てストレッチを行う。



今日は朝からピーカンで、どっしりと構えた鹿島槍ヶ岳の雄姿を眺めたら出発する。樹林帯を少し下り、緩やかに登り返すと冷池乗越に出る。ここからの鹿島槍ヶ岳は、山容が美しく見事だ。西側には剣岳から立山連峰や後立山連峰が聳え、絶好の撮影ポイントだ。ここからは右手に立山連峰を見ながら、ハイマツ帯の山腹を緩やかに登り、「スゴ～～イ、キレイ～」と歓喜の音が上がる。今日はクサリやハシゴから解放され、緩やかな登山道にとっても嬉しそう。爺ヶ岳北峰はパス

し、少し進んで左に登ると展望の良い爺ヶ岳南峰に着く。山頂からは360度の大大パノラマが得られ、朝の光に輝く鹿島槍ヶ岳や剣岳、立山連峰が素晴らしい。特に、赤い屋根の種池山荘と立山連峰がバランス良く、1枚の絵ハガキを見ているようだ。

ゆっくり休憩し、景色を思う存分楽しんだら山頂を後にして種池山荘へ向かう。種池まではハイマツ帯の広い尾根をゆっくり歩く。種池山荘周辺にはチングルマやコバイケイソウが咲くお花畑が広がっている。チングルマは見られたが、コバイケイソウは時季が早いのか見ることが出来なかった。種池山荘前のベンチで休憩すると、山荘の方が「間もなく荷揚げのヘリが来るので、小屋の中に避難してください」との事。急いでトイレを済ませ、ザックを持って山荘の中に避難する。山荘でコーヒーやジュースを買い、飲みながらくつろいでいるとヘリが到着した。吊り下げてきた荷物を素早く降ろし、小屋から下ろ



す荷物を付け替え一気に降りて行く。この航空ショーを窓から眺め、「ウワ～～凄い、こんな近くで見るのは初めて！」と興奮気味。5分くらいでまた飛んできて、荷揚げ作業を繰り返す。3回見たので「航空ショーはもういいだろう？」と言って下山する。お花畑の間を下り扇沢へ向かう。柏原新道は整備された歩き易い道である。「鉄砲坂」「富士見坂」と爺ヶ岳の山腹をトラバス気味に下り、途中のケルンで休憩し、予約したタクシーの時間を30分早めてもらう。「駅見岬」から扇沢のターミナルを見下ろしながら下り、「モミジ坂」の急坂を過ぎれば間もなく扇沢出合の登山口に着く。登山口にはタクシーが待っており、2台に分乗し白馬のゴンドラ駅に向かう。ゴンドラ駅で車を乗り換え、八方温泉で3日間の汗を流す。



白馬のガストで昼食を食べ、道の駅「中条」と横川 SA でお土産を買い予定より早く岩舟支所へ着いた。迷走する台風5号の動向次第では雨も覚悟したが、3日間とも晴天に恵まれ後立山連峰随一のダイナミックな縦走路を踏破し、大満足の山行を堪能出来た。